

# 私立大学研究ブランディング事業 2019年度の進捗状況

学校法人番号	181002	学校法人名	福井仁愛学園			
大学名	仁愛女子短期大学					
事業名	保育者育成のためのキャリア・ルーブリックの開発 ～シームレスな高校・短大・保育現場の繋がりを目指して～					
申請タイプ	タイプA	支援期間	2018	年度～	2020	年度
参画組織	幼児教育学科、生活科学学科、研究活動委員会、CI委員会、点検評価推進室、情報資源センター、総合学務センター（旧：学生部および地域活動実践センター）、事務局					
事業概要	<p>本事業の目的は、「保育職を志す高校生」が「豊かな経験を有する保育者」へと成長していくため、向上させるべき資質能力の継続的発展を示す「キャリア・ルーブリック」の開発を行い、高校・短大（養成校）・保育現場が三者間で連携・協働してシームレスな保育者育成環境を構築することにより、「保育の学びがみえる仁短」というブランドイメージの確立を目指すことである。</p>					
①事業目的	<p>本学幼児教育学科では、これまで3ポリシー（AP・CP・DP）を設定し、適宜その見直しも行ってきた。しかし、見直しを重ねる中で、入口側であるAPと受験生が身につけている資質能力、出口側であるDPと保育現場が求めている資質能力との間には乖離（＝段差）があることが浮き彫りになってきた。この課題を明確にするため、平成26年度から4年間にわたり、福井県全幼稚園、保育所、認定こども園（計337園）を対象としたアンケート調査を実施し（回収率86%）、その結果を『福井県内保育者対象アンケート調査研究報告書』（平成30年3月発行）としてまとめ、本学の保育者養成の特徴や課題の数値化及びその分析を行った。</p> <p>現在、本学が設定する3ポリシーは、あくまで短期大学の立場で、学生が入学時点で保有していて欲しい学習水準から、卒業時点での獲得すべき学習成果の目標、及びその達成のための教育課程編成等の基本的な方針を言語化したものである。しかし、学生本人の立場からすれば、保育職を志望する時点から保育者になった後の将来に亘ってまで、一筋のキャリアとしてストーリー化でき得るものとはなっていない。そこで本学では、「保育職を志望する段階」から「管理職の保育者になる段階」までの間に求められる資質能力を、一貫して体系化していくためのものを「保育者育成のためのキャリア・ルーブリック」と名付け、開発を行なう。</p> <p>キャリア・ルーブリックとは、本人が、高校、短大、保育現場の各段階で身につけるべき資質能力及びその段階的基準を共通化し、それを共有することにより「学びの可視化」を図るためのものである。この開発により、三者がキャリア・ルーブリックという一つのツールで繋がり、一体となって保育者を育成していこうとする育成環境、即ち、継ぎ目の無い「シームレスな高校、短大、保育現場の繋がり」が構築される。</p> <p>短期大学は、入学してから2年間という短い期間で保育者を育成し、しかも専門職就職率が9割を超える状況で学生を保育現場へと送り出す。言い換えれば、高校・保育現場と連携して、一貫した保育者育成環境を構築するには、短大が最も適していると言える。このように、本研究は、本学が短大の強みを活かしたものであり、研究テーマを地域社会にアピールしていくことで「保育の学びがみえる仁短」というブランドイメージの確立を目指すものである。</p>					
②2019年度の実施目標及び実施計画	<p>■研究活動 〈目標〉 ○キャリア・ルーブリックを提示していきたいステークホルダーの実際の現状等を把握 ○キャリア・ルーブリックの具体的な文言の作成に着手 〈実施計画〉 ○『福井県内保育者対象アンケート調査研究報告書』に基づく追加調査 〔アンケート調査および個別面接調査〕 ○高校進路指導部に対するアンケート調査 ○「保育体験ツアー」時における高校生へのアンケート調査 ○キャリア・ルーブリック試案の作成</p> <p>■ブランディング戦略 〈目標〉 ○保育現場と高校のつながりを強化（高校生に、保育を志すきっかけを提供する） ○すすんだ保育研究を行っている短大としての認知度の向上（本事業の告知を行う） 〈実施計画〉 ○Webサイト、印刷物、SNS等を活用し、実施した内容とその成果を周知。</p>					
③2019年度の事業成果	<p>■研究活動 「研究実施部会」において詳細な研究テーマ・内容を決定するとともに、テーマに基づき3つの部会を設け、各々の研究活動の展開および進捗管理を行った。以下に、各部会の成果を簡潔に記す。 〈第1部会〉「保育者に求められる資質・能力とその獲得に向けた養成校における学習と評価」 ①全国の2年制保育者養成校におけるDPおよびAPを収集し、それぞれの傾向やいくつかの категориを抽出した。②現場保育者が好んで用いる「人間性」という言葉に着目し、保育者が求めている「人間性」とは何を指しているのか、という点を明らかにすべく、質問紙調査を行った。③保育者養成教育における「プログラミング教育」への考え方や「音楽的感性」を養う授業展開など、今後の日本の保育において求められるであろう学習成果や学習内容について研究を行った。④幼稚園実習、保育所実習に参加する学生に「実習先で気づいてきてほしい点」を開講科目ごとに記し表にした「実習ポートフォリオ」を新たに開発した。以上、第1部会での研究成果と課題をもとに、キャリア・ルーブリック試案のおおよその枠組みや、記述内容の方向性を議論した。</p>					

<p><b>③2019年度の事業成果</b></p>	<p>〔第2部会〕「ステークホルダーに対する養成校の役割」</p> <p>連携協定先の各保育施設に対して幼児教育学科教員が定期的に巡回訪問等の関わりを続けるとともに、本学教員が担当する県内の様々な講座や研修において、保育現場からの直接の声を拾うなどして、ステークホルダーとの協議や連携を進めている。研究の成果としては、幼児教育学科に在籍中、計5回の実習に行く学生たちが、その都度の実習で何を体験しているのかについて、実習後アンケートの記述から明らかにした。その結果、実習の時期や実習種別によって経験内容、学習内容が異なっており、この点については、今後、保育現場と共有していく予定である。ところで、2019年8月開催の「保育現場体験ツアー」では、参加した48名の高校生へアンケート調査は実施したものの、研究成果としてまとめ上げるまでには至っていない。また、計画にある高校進路指導部への直接の調査は未だ実施できていない。保育職を志望する高校生に焦点を当てた研究成果としては、関連する先行研究を集め、その系譜と課題をまとめることで、養成校として高校側にどのようにアプローチすべきかの方向性を検討した。</p> <p>〔第3部会〕「社会の実態、ステークホルダーの実態」</p> <p>様々な人々にとって「保育職」に対するイメージはどのようなものなのかを調査している。その調査の第一段階として、2019年度は本学学生に対して質問紙調査を実施し、まずは保育者を希望する者のイメージ傾向を明らかにした。</p> <p>■ブランディング戦略</p> <p>保育現場と高校のつながりを強化し、高校生に対して保育を志すきっかけを提供することを目標とする活動として、県内の二つの高校との複数回にわたる連携授業およびその後の保育現場での成果発表の実施に取り組んだ。また、上述の「保育現場体験ツアー」による附属幼稚園との協働など、これまで以上に、高校生と保育現場とをつなげる役目を本学が果たすことで、保育職の魅力を発信するとともに本学のブランドの向上等に寄与した。</p> <p>最先端の保育研究を行っている短大としての認知度の向上ならびに本事業の告知を目標に、「ブランディング戦略部会」メンバーで本事業の発端や研究課題について共有したうえで、事業趣旨を具現化するようなロゴマークの制作、本事業を紹介するリーフレットの作成、特設webページの開設などを行った。さらに、最寄のJR森田駅に附設されているギャラリーにおいて、本事業の告知に努めた。</p> <p>なお、年度末に、研究活動およびブランディング戦略の詳細をまとめた『2019年度成果報告書』を刊行し、本学教職員および本事業関係者へと送付している。</p>
<p><b>④2019年度の自己点検・評価及び外部評価の結果</b></p>	<p>(自己点検・評価)</p> <p>○「プロジェクト評価部会」では、2019年度の本事業活動を以下のように評価した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業計画に基づく実態把握・共有・展開への流れなど、進捗状況を確認しながら今後の課題についても整理されている。</li> <li>・「研究実施部会」では、2019年度当初の目標（短期目標）に沿って、著書・論文・学会発表など積極的な研究活動が行われ、教員の専門性や担当授業の特性を活かした研究、保育者養成に関わる多面的な視点からの研究がなされている。</li> <li>・「ブランディング戦略部会」では、できる限りの機会をとらえ、仁愛女子短期大学のブランドを意識して広報活動を積極的に行い、学外への周知は徹底していると評価する。</li> <li>・それぞれの活動をPDCAサイクルで確認しながら展開を図り、十分に集められた素材を活かしてループブリック作成に臨める準備はできていると思われる。</li> </ul> <p>(外部評価)</p> <p>○新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、2020年3月に開催を予定していた「全体会（外部評価委員会）」は中止とし、外部評価員には『2019年度成果報告書』を送付するとともに、書面にて下記のような評価をいただいた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「研究実施部会 活動報告」に対する評価</li> </ul> <p>全体として、活発な研究活動を実施されており、本事業の根幹となる目的の達成に資するような成果が一定程度挙げられている。残念ながら、2019年度の目標に掲げられていた「キャリア・ループブリックの具体的な文言作成に着手」という部分が進められておらず、この作業に早急に取り組む必要がある。</p> <p>本事業全体のねらいは、保育者のキャリア全体で求められる資質能力を示すループブリックを開発することだが、2020年度中にキャリア・ループブリック全体を試作し、完成させることは時間的に難しいように思われる。むしろ、子どもとの関わりや、保護者との関わり、設定保育といった保育者のパフォーマンスのいずれか一つに絞って、ループブリックの試作に取り組んでみてはどうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ブランディング戦略部会 活動報告」に対する評価</li> </ul> <p>全体として、活発なブランディング戦略の活動が行われており、仁愛女子短期大学のブランドイメージの向上と確立に資する成果が一定程度挙げられていると考えられる。とりわけ、保育現場体験ツアーや高校との連携授業、オープンキャンパスでの卒業生による設定保育の実施といった事業は効果的であり、今後の継続・充実が望まれる。さらには、ブランディング戦略活動とループブリック開発のための研究活動をより一層連携させ、ループブリックの開発のための素材（優れた保育者のパフォーマンスの実例）を集め、研究と広報の両方に生かしていくことが効果的だと考える。</p>
<p><b>⑤2019年度の補助金の使用状況</b></p>	<p>補助金使用については、年度当初に研究実施部会ならびにブランディング戦略部会が作成した事業計画書に基づき、総合学務センター内に所属する「ブランディング推進室」にて随時進捗状況を確認しつつ、下記の通り執行した。</p> <p>■研究活動</p> <p>研究に伴う図書購入費、文献複写費、郵送費、学術大会・セミナー参加費および旅費、消耗品購入費</p> <p>■ブランディング戦略</p> <p>ブランドイメージの向上および確立のための広報材料制作費（撮影費・デザイン費・印刷費）、本事業専用webページおよびバナー設計・制作・開設費、新聞掲載広告費、広報活動支援のための機器備品購入費（iMac・iPad等）、郵送費、高校生および卒業生対象イベント諸経費（保険代・参加品制作費など）</p>